

新松原みんなの家

田上, 健一
九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門

朝廣, 和夫
九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門

<https://doi.org/10.15017/2349291>

出版情報 : 芸術工学研究. 31, pp.9-18, 2019-10-01. 九州大学大学院芸術工学研究院
バージョン :
権利関係 :

新松原みんなの家

The House for Everyone in Shinmatsubara

田上健一¹

TANOUE Kenichi

朝廣和夫¹

ASAHIRO Kazuo

Abstract:

Huge damage occurred in the Kumamoto earthquake. After the disaster, 4,303 temporary housing units were built at 110 temporary housing complexes in 15 municipalities, and 95 "The House for Everyone" were constructed. This paper reports on the outline of "The House for Everyone in Shinmatsubara", Uto City, Kumamoto Prefecture, which was in charge of the design.

1. はじめに

2016年4月14・16日に発生した熊本地震¹⁾では、熊本県を中心に甚大な被害が発生した。全壊8,697棟、半壊34,037棟、一部損壊155,902棟、公共施設被害439棟などが確認²⁾された「建物被害中心型」の大災害であった。災害後は15市町村110ヶ所の仮設団地に4,303戸の応急仮設住宅が建設³⁾され、各仮設団地には被災者の再建活動やコミュニティ形成の促進を目的とする「みんなの家(集会所)」が95棟建設されている。本稿では、設計を担当した熊本県宇土市の「新松原みんなの家」の概要について報告する。

2. みんなの家の事業スキーム

災害救助法では、応急仮設住宅50戸以上を一つの敷地内に設置した場合、被災者の再建活動を補完する仮設団地内集会所を設置できることになっている⁴⁾。熊本地震では「規格型」「本格型」と呼称される集会所が84棟整備された。しかしながら、被災範囲が広範であったことや既存コミュニティの継承を重要視したこともあり、応急仮設住宅20戸以上が66団地に対して、20戸未満が44団地もあった。

「被災者の痛みの最小化」「創造的復興」を復旧復興の原則とする熊本県の方針に沿うかたちで、応急仮設住宅20戸未満の小規模仮設団地には、(公財)日本財団による「住宅・事業再建資金のための融資制度(わがまち基金)」の一部を活用し、自主提案型の「プッシュ型」と呼称する小規模型『みんなの家(集会所)』を整備することになった⁵⁾。

整備主体は熊本県(土木部建築住宅局建築課アートポリス・UD班)及び(一財)熊本県建築住宅センターとの共同、

連絡先：田上健一, tanoue@design.kyushu-u.ac.jp

¹ 九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門
Department of Environmental Design, Faculty of Design, Kyushu University

完成後の管理及び運営は施設譲渡を受けた市町村・自治会等となった。また、設計者の選定は伊東豊雄・熊本アートポリスコミッショナーによる推薦、施工者は災害協定締結団体等からの斡旋となっている。

3. 新松原みんなの家

最大震度6強を観測した宇土市(人口37,458人)では、死者7名、全壊127棟、半壊1,664棟、一部損壊5,523棟などの被害があり、仮設団地6カ所、応急仮設住宅143戸が整備された。

新松原仮設団地はプレハブ建築協会施工による18戸の小規模仮設団地であり、「新松原みんなの家」は敷地の制約などから100mほど離れた市所有の、九州新幹線・JR鹿兒島本線・JRあまくさみすみ線・国道57号立体橋・調整池・水路などの交通インフラ等の土木構築物に囲まれた変形敷地に計画されることになった。この変形敷地が生成されたのは、元々北東-南西軸の街割・区画形成に南北軸の鉄道や道路が敷設されたためである。

2017年7月25日に、近隣住民約25名との意見交換会を宇土市仮庁舎内会議室にて行い、「気楽で自由な使い方」「料理ができること」「緑や花を楽しめること」「若い人にも使ってもらいたい」「地元の自慢になること」などの意見が出され、運営や管理方法についても議論を行った。仮設団地撤収後も「新松原みんなの家」は継続して新松原地区の公民館として使用されることも確認された。変形敷地生成の歴史的理の説明も行い、配置計画の方針も了解が得られた。

設計は、「開いた空間」とすることを主眼としながらも、周辺インフラ構築物との接触領域には2枚の壁による境界を創ることとしている。二等辺三角形平面や全体のプロポーションは、三角形の敷地条件よりも騒音や景観など周辺環境条件に依るところが大きい。最小限の室内空間からも近隣住宅地からよく見えるように最大辺を全面開口とし、通り庭との連続性を図っている。外壁・屋根材にはコンクリート構築物とは対比的な「土色」を使用し、テクスチャの混在による景観の土着化を意図した。

架構は105mm×330mmの登梁、最大辺両端の桔木のはねだしにより、桔木接合金物の若干の複雑さを除けば単純かつ合理的な計画とした。木材は全て熊本県産杉流通材を使用し、外装吹付材を除くほぼ全てを乾式工法で構成している。災害後は材料・職人確保が困難を極める中、可能な限り手間の省力化を試みる所以であった。

緑地は、「被災された地域の方々が適度に植栽・管理

に関わること」、「季節を通じて美しい緑と花に触れること」「建築形態を活かした植栽配置」を基本的な考え方とした。三角形平面の各頂点が視対象となるため冬に花を咲かせるサザンカ、2月頃に花を咲かせるマンサク、夏に赤い花を咲かせるサルスベリをそれぞれ配置し、その間に宇土市のシンボル花であり6~7月にかけて花を咲かせるアジサイを配植している。

縁側からは、その季節にはアジサイのパノラマが楽しめ、サザンカ・マンサク・サルスベリは、冬と夏の点景となる。アジサイの下には、シャガ・キボウシ・ヤブラン・ツツブキなど、手のかからない在来多年草を配色している。

4. おわりに

2018年4月22日の完成式では、多くの住民に加え建築造園施工者、自治体職員、KASEI⁹⁾による学生ボランティア、全国女性造園技術者の会メンバーなど多くの関係者・ボランティアが集まり、植栽の植え込み作業を行い、その後大いに語り合った。環境の創造を通じた地域の求心性や協働性が確認できた時間でもあった。「暗い被災地の住宅地の片隅に明かりが灯り、希望の灯火にも見える」という意見も聞かれ、小さな空間ながらも有機的に馴染んでいくことが期待される。社会福祉協議会による体操教室やお茶会、地区の会合や子ども会のイベントにも使われ始め、今後はさらにこの地域の復興が進むことを願っている。

謝辞

本計画にご支援頂いた、熊本県土木部建築住宅局建築課、熊本県建築住宅センター、(株)ロジック、(有)アースグリーン、KASEI、全国女性造園技術者の会、九州大学田上研究室・朝廣研究室など、すべての関係の皆様へ心より感謝致します。

注

- 1) 熊本地震は、2016年4月14日降に熊本県と大分県で連続して発生した。気象庁震度階級の最大震度7を観測する地震が4月14日夜と4月16日未明に発生したほか、震度6強が2回、震度6弱が3回発生した。日本国内の震度7観測事例としては4例目(九州地方初)と5例目に当たり、気象庁震度階級制定以降初めて震度7が2回連続して観測された。また、一連の地震回数(M3.5以上)は内陸型地震としては1995年以降で最多であった。
- 2) 平成28年(2016年)熊本地震に係る被害状況等について(2016年4月~)、熊本県災害対策本部
- 3) 平成28年熊本地震応急仮設住宅記録誌「熊本地震仮設住宅はじめて物語」、一般財団法人熊本県建築住宅センター、平成31年3月
- 4) 災害救助法第2条二のハ
- 5) 応急仮設住宅における「みんなの家」の整備について、熊本県土木部建築課、http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_16340.html
- 6) KASEI(九州建築学生仮設住宅環境向上プロジェクト)とは、熊本地震後に応急仮設住宅の環境向上を目的として設立された、九州地区の建築計画・建築意匠系研究室によるボランティア団体である。



写真-1 北東方向から

全面開口側に広縁を設け住宅地への拡がり・親密性を意識するとともに、植栽との相互利用を意図している。



写真-2 東側から
各三角形の頂点部分に四季の変化を意図して、サザンカ・マンサク・サルスベリを配した。



写真-3 南側から
新松原みんなの家は、応急仮設住宅から約100mの位置にある。



写真-4 室内から1

内壁はシナ合板 (t9) 突付テーパークット+オスモクリアー仕上。



写真 -5 室内から 2
玄関から通り庭と近隣住宅地をみる。



写真-6 夜景
柔らかな光が被災地を照らす。

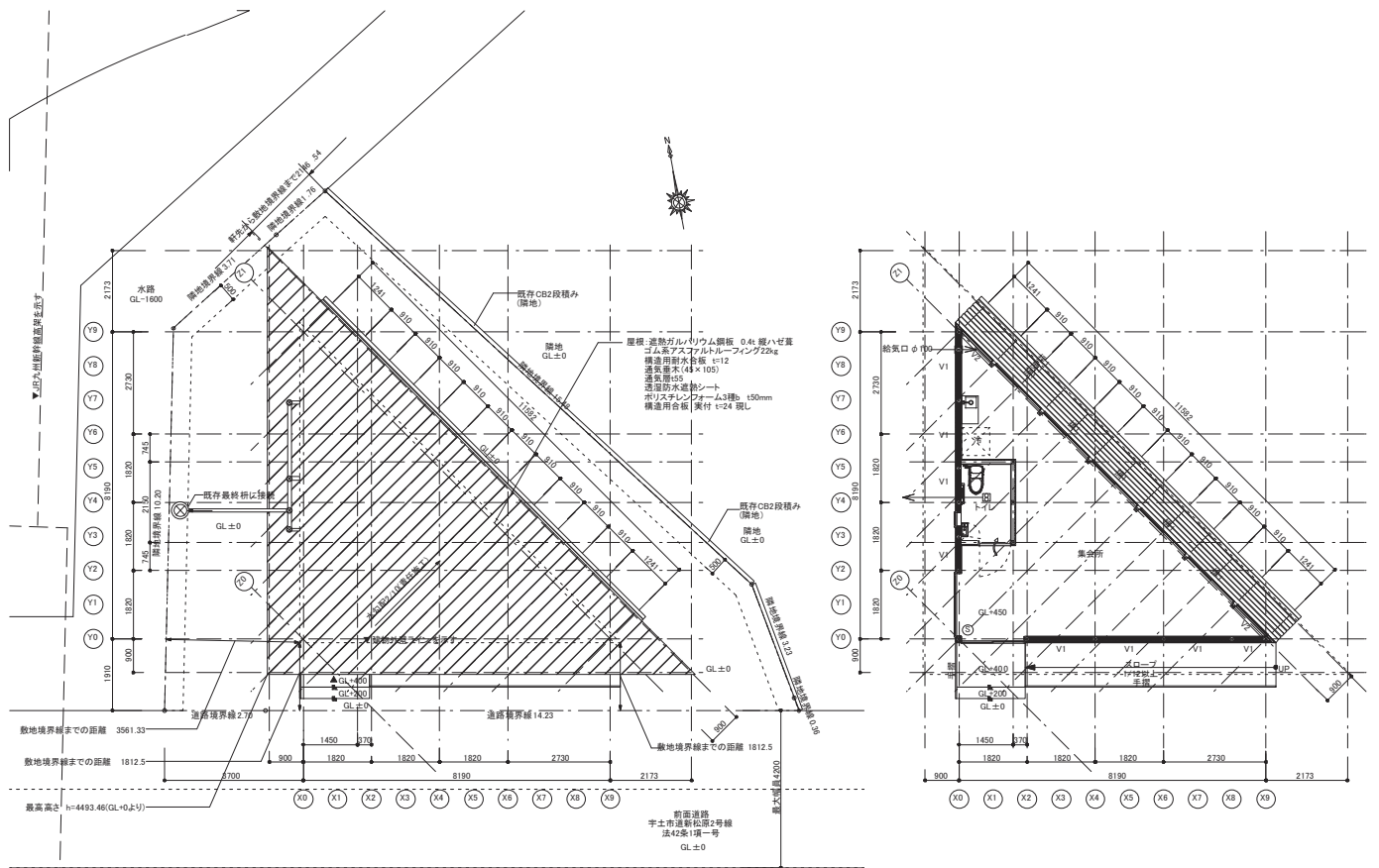


図-1 配置図・平面図 (SCALE 1/200)

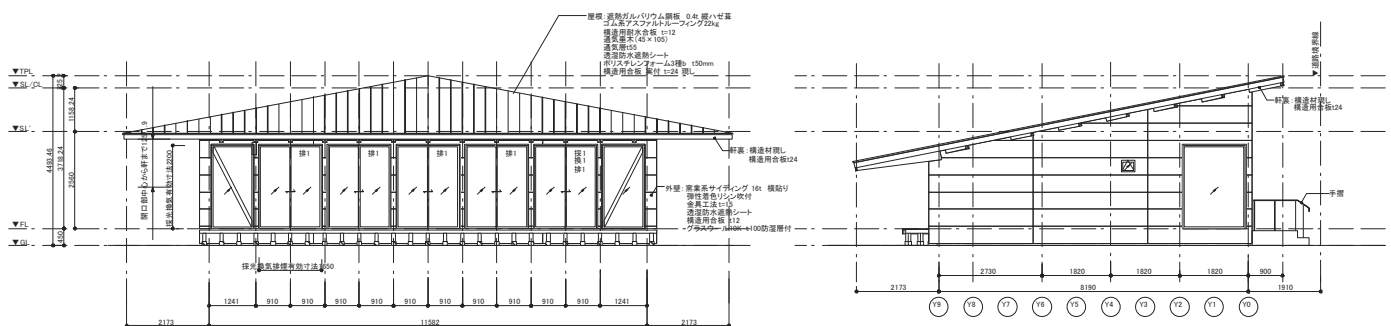


図-2 立面図 (SCALE 1/200)



写真-7 意見交換会



写真-8 住民による植栽作業

建築データ

所在地／熊本県宇土市新松原佐野免 193-2.193-5.93-6
主要用途／集会所

設計

建築設計／田上健一
外構設計／朝廣和夫
構造設計／黒岩裕樹 (黒岩構造設計事務所)
設計協力／岡田祐介 (OYA)

施工

設計監理／田上健一 + 田上一級建築士事務所 (田上弘)
施工管理／(株)ロジック (岡元誠)
造園／アースグリーン (山口靖久)

構造・構法

主体構造／木造平屋

建築規模

最高高さ／4,493 mm
建築面積／33.54 m²
延床面積／33.54 m²

工程

設計期間／2017年4月～2017年5月
工事期間／2017年2月～2018年4月

外部仕上

共通

屋根／遮熱ガルバリウム鋼板 0.4t ニクスカラー SGL RRO25S
(日鉄住金鋼板)
外壁／サイディング t16 + 薄付仕上塗材シボカケン DORPO24
(エスケー化研)

内部仕上

共通

床／杉板 t12 mm (構造用合板 t24 下地)
壁／シナ合板 t9 の上オスモカラーエクストラクリア
天井／構造用合板表し
建築金物／KAWAJUN

設備

給水／直結給水方式
空調／空冷ヒートポンプ方式
照明／パナソニック電工 換気扇／パナソニック電工
便器／ウォシュレットトイレ (LIXIL/INAX)
シンク／SANWA COMPANY バーノ 750

意見交換会 (ワークショップ)・完成式協力

磯上千尋、田中晴耕、野添修斗、河合恵美、福田健、山中雄登、有馬駿、
中原有理、遠藤智樹、宮嵩慧、木山響心、伊藤高基、河原ゆい、近藤まいこ、
鹿島悠平、David Schneider

写真

大森今日子、写真 7.8 は田上健一